

ロシアはウクライナ侵略をただちにやめよ―断固糾弾の街頭演説原稿

2022年2月26日 日本共産党埼玉県委員会

ご近所のみなさん、こちらは日本共産党です。ロシアによるウクライナへの侵略はただちにやめよ、ロシアはウクライナから手を引け―この思いをお持ちの多くのみなさんとともに「戦争反対」の声をあげたいと思います。

みなさん、ロシアの軍隊が24日にウクライナに侵攻し、民間人を含めて多数の死者が出ています。今回のロシアの行動が国連憲章と国際法に明確に違反する侵略行為であることは明らかであり、私たち日本共産党は怒りを込めて糾弾します。そして、ただちに侵略行為をやめること、ロシアの軍隊はウクライナから撤退せよと強く求めます。

今回のロシアの行動は、プーチン大統領がいくら正当化したとしても、「主権の尊重」「領土の保全」「武力行使の禁止」などを義務付けた国連憲章に違反することは間違いありません。国連憲章は2度の世界大戦を教訓として、他国への侵略を禁止し、紛争の平和的解決を国連の加盟国に義務付けています。プーチン大統領がいくら民族と歴史的な関係をあげたとしても、侵略を正当化することはできません。プーチン大統領はまた、ウクライナの東部地域の「要請」を受けての「集団的自衛」だといいますが、他国の地域の「独立」を一方的に承認して派兵することに何の道理もありません。

さらに許しがたいことは、ロシアへの攻撃に核兵器で対応する姿勢を示したことです。これは、核兵器の先制使用も辞さないという最悪の威嚇(いかく)です。日本は77年前、広島と長崎に原爆が投下され、一瞬に都市は破壊され、その年末までに20万人以上の命が奪われました。いまもなお苦しむ被爆者の願いは核兵器の廃絶です。被爆国日本としても、このような核兵器による威嚇は絶対に許すわけにはいきません。

みなさん、いま何よりも重要なことは、世界中の国々と市民社会が「ロシアは侵略をやめよ」「国連憲章を守れ」―この一点で、声を上げ、力を合わせることです。もちろんロシアへの経済制裁も必要ですが、世界中で「戦争反対」の声をあげて、プーチン大統領を包囲すること、これがロシアにとつては何よりもの打撃となります。どうかみなさん、一緒に声をあげましょう。「戦争反対」と声をあげましょう。

みなさん、いま問われていることはなんでしょう。ウクライナの主権の侵害、これが目に見えて問われていることです。同時に、国連憲章にもとづく世界の平和秩序が根底から脅かされています。2度にわたる世界大戦で、多くの人命が失われた体験から「もう人類は戦争はしてはいけない」との痛切な願いによつて生まれたのが国連憲章です。その国連憲章にもとづく平和秩序がロシアの侵略によつていま根底から脅かされています。みなさん、ですからこの問題はロシアとウクライナの問題ではなく、世界の、日本の問題です。「国連憲章を守れ」の声をどうか一緒に上げていきましょう。

みなさん、私たち日本共産党は、党をつくって今年で100年になります。党が生まれた時から、一貫して戦争反対の旗を掲げ続けてきました。アメリカによるベトナム侵略にも、ソ連の覇権主義にも反対してたたかってきました。私たち日本共産党は、反戦平和の党として、ロシアのウクライナ侵略反対の世論と運動を広げていくためにがんばります。

ご一緒に「戦争反対」の声をあげていくことをお願いしまして、この場所をお借りしての訴えを終わりにします。ご協力いただき、ありがとうございました。